

耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

科 長（教授）	吉田 尚弘
医 員（教授）	鈴木 政美
（講師）	金沢 弘美
（助教）	長谷川雅世
（2024年4月より育児短時間勤務）	
	江洲 欣彦
（2024年4月よりさいたま市民医療センター派遣）	
病院助教	民井 智
	澤 允洋
シニアレジデント	4名

2. 耳鼻咽喉・頭頸部外科の特徴

埼玉県は、人口あたりの耳鼻咽喉科医の数は全国でも少ない県の一つであり、埼玉県全体に占める二次、三次医療機関としての当センター耳鼻咽喉・頭頸部外科の役割は大きく多数の外来、救急患者のご紹介を受けている。

2024年は医局関連病院のスタッフに新たな入局、異動があった。新井仁、野島誠、鈴木芽実の3名の先生が初期臨床研修を終えて新たに入局し、当センターを基幹研修施設とする専攻医プログラムを開始した。センター定員の関係から鈴木芽実先生は東京北医療センターで専攻医研修を開始した。それぞれの先生が臨床・研究への高いモチベーションをもち、今後の診療・研究を担う立場につながるような指導をしていきたいと考えている。

鈴木政美准教授は、8月より学内教授へ昇任した。埼玉県内の頭頸部悪性腫瘍を行う医療機関の一つとして口腔、舌、咽頭、喉頭、甲状腺を含めた頭頸部領域の悪性疾患の治療を行った。金沢弘美講師は耳鼻咽喉科領域全般にわたり、なかでも耳科疾患、小児耳鼻咽喉科診療、レジデントへの指導を行っていただいた。長谷川雅世先生は3月に博士課程修了し、4月より助教に復職した。外来診療を中心に大学院で培った科学的な思考を今後の臨床に生かしていただけると期待している。江洲欣彦先生は、好酸球性中耳炎の臨床研究、耳科手術など診療、研究に活躍、2024年4月からはさいたま市民医療センターへ派遣となった。さいたま市民医療センターは本人・家庭の事情に則した多彩な勤務形態を選択可能で、当センターでも柔軟な対応がより求められる。民井智先生には、さいたま市民医療センターの3ヶ月の短期派遣から1月に復職し、特に頭頸部がんの薬物治療についてレジメンの整備、入院治療に関するシステムを構築した。澤允洋先生は1月から3月までさいたま市民医療センターへ短期派遣、4月からは復職し若手研修医への教

育をはじめとして、耳科、内視鏡下鼻副鼻腔手術、内視鏡下甲状腺腫瘍摘出術など多くの診療面で活躍いただいた。島崎幹夫先生は頭頸部がん治療の研修のため埼玉県立がんセンターでの2年間の国内留学を終え10月に復職した。専門領域の多くの症例とともに、他の大学医局出身の先生の中で得られた多くの経験は大きな財産となるであろう。8月には耳鼻咽喉科専門医試験にも合格した。高橋英里先生は、育児短時間勤務の限られた時間の中で密度の高い診療、業務を行っていただいている。その姿勢は他の医局員にとっても良い影響を与えており、キャリアアップも引き続き支援していきたい。寺田由佳先生は、10月より自治医科大学附属病院で研修となり、幅広い疾患、診療システム含めて良い点を多く吸収してきていただきたいと考えている。

常に当耳鼻咽喉科を支えて下さっているのが非常勤の先生方であり、本年もご尽力をいただいた。手術日には東京北医療センターの飯野ゆき子名誉・客員教授、菊地さおり先生、開業なさっている松澤真吾先生が手術をサポートして下さった。また特別外来として高橋直人先生には、第3水曜日午前に声帯麻痺外来、喉頭形成手術を担当していただいた。第4の水曜日午後の補聴器外来は宮澤哲夫、柿崎景子先生にご担当いただいた。石川浩太郎先生には、遺伝性難聴症例の診断・治療について相談させていただき、このように非常勤の先生たちに支えられて、1年間、充実した診療を行う事ができた。耳鼻咽喉科常勤スタッフ、非常勤スタッフに心より感謝したい。

近隣の先生方と密に連携をとりあい、今後もさいたま二次医療圏のみならず埼玉県の地域医療の中心的存在として、幅広い耳鼻咽喉科頭頸部外科の領域全般にわたり役割を果たしていきたいと考えている。

●施設認定：日本専門医機構耳鼻咽喉科領域基幹研修施設
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医

吉田 尚弘
鈴木 政美
金沢 弘美
長谷川雅世
江洲 欣彦

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

民井 智
澤 允洋
高橋 英里
島崎 幹夫

日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門研修施設
頭頸部がん専門医・指導医

鈴木 政美

日本アレルギー学会専門医認定施設
日本アレルギー学会専門医・指導医
(耳鼻咽喉科)

吉田 尚弘

日本気管食道科学会専門医制度研修施設
日本気管食道科学会専門医

吉田 尚弘

日本耳科学会認定耳科手術指導医研修施設
耳科学会暫定手術指導医

吉田 尚弘

日本鼻科学会認定鼻科手術指導医研修施設
鼻科学会暫定手術指導医

吉田 尚弘

日本内分泌外科学会認定研修施設
日本内分泌外科学会指導医

鈴木 政美

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 外来患者数

初診数 1,354人
再診数 10,642人

2) 手術症例病別件数

中央手術部 1,180件
耳 165件

慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎	83
滲出性中耳炎	29
癒着性中耳炎	1
先天性耳瘻孔	4
耳小骨離断	2
鼓室硬化症	4
高度感音難聴	6
外リンパ瘻	1
耳硬化症	4
中耳腫瘍	1
外耳道真珠腫	4
外耳道腫瘍	3
好酸球性中耳炎	2
中耳異物	2
コレステリン肉芽腫	2
外耳道狭窄	1
髄液耳漏	1

鼻 330件

慢性副鼻腔炎	63
鼻中隔彎曲症	68
アレルギー性鼻炎	14
肥厚性鼻炎	26
術後性上顎嚢胞	8
涙道閉塞 鼻涙管閉塞	37

副鼻腔真菌症	15
鼻副鼻腔腫瘍	23
好酸球性副鼻腔炎	30
鼻骨骨折	1
鼻出血	29
鼻副鼻腔嚢胞	5
鼻性視神経炎	2
下垂体腫瘍	5
後鼻孔ポリープ	1
副鼻腔気管支症候群	1
鼻腔内異物	1
鼻性脳膿瘍	1

咽頭・喉頭 179件

習慣性扁桃炎	26
扁桃病巣感染症	25
睡眠時無呼吸症候群	6
扁桃肥大	6
アデノイド増殖症	9
喉頭腫瘍	11
声帯ポリープ	7
声帯麻痺	10
声門狭窄	9
声帯横隔膜症	1
扁桃周囲膿瘍	7
咽頭腫瘍	2
上咽頭腫瘍	1
中咽頭腫瘍	1
口腔底膿瘍	1
舌腫瘍	5
咽頭異物	4
喉頭異物	1
舌癌	10
歯肉癌	2
口腔底癌	2
硬口蓋癌	1
頬粘膜癌	2
中咽頭癌	5
下咽頭癌	10
喉頭癌	11
急性喉頭蓋炎	4

頸部 190件

耳下腺腫瘍	43
耳下腺悪性腫瘍	2
頸部リンパ節腫脹	23
頸部リンパ節転移	11
甲状腺良性腫瘍	13
甲状腺癌	14
顎下腺唾石症	4
顎下腺腫瘍	7
顎下腺悪性腫瘍	1

頸部腫瘍	17
頸部嚢胞	3
深頸部膿瘍	8
口腔底膿瘍	1
気管切開術後	7
長期挿管 呼吸困難	36

3) 手術術式別件数

耳手術 202件

鼓室形成術	77
チューブ留置	38
鼓膜形成術	14
先天性耳瘻管摘出術	7
アブミ骨手術	5
乳突削開術	17
外耳道形成術	5
人工内耳埋込術	6
鼓膜切開術	24
外耳道腫瘍切除	2
髄液漏閉鎖術	1
顔面神経管開放術	1
外耳道異物除去術	3
外耳道悪性腫瘍手術	2

鼻副鼻腔手術 498件

内視鏡下鼻内副鼻腔手術	215
鼻中隔矯正術	81
粘膜下下甲介切除術	130
涙嚢鼻腔吻合術	37
鼻骨骨折整復術	3
鼻腔粘膜焼灼術	20
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	6
経鼻的下垂体腫瘍摘出	4
鼻内異物摘出術	1
術後出血止血術	1

口腔・咽喉頭手術 250件

口蓋扁桃摘出術	145
アデノイド切除術	29
上咽頭腫瘍摘出術	1
中咽頭腫瘍摘出術	2
下咽頭腫瘍摘出術	3
咽頭悪性腫瘍摘出術	3
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	9
舌腫瘍摘出術	2
舌悪性腫瘍手術	1
口唇腫瘍摘出術	2
ラリンゴマイクروسার্ジェリー	24
喉頭形成術	3
喉頭気管分離	1
咽後膿瘍切開	1
口腔底膿瘍切開	1

扁桃周囲膿瘍切開	7
喉頭悪性腫瘍手術	3
喉頭下咽頭悪性腫瘍手術	1
下顎骨悪性腫瘍手術	1
咽頭異物摘出術	4
唾石摘出術	5
術後出血止血術	1
喉頭異物摘出術	1

頭頸部腫瘍手術 230件

耳下腺腫瘍摘出術	43
耳下腺悪性腫瘍手術	2
顎下腺摘出術	1
顎下腺腫瘍摘出術	7
顎下腺悪性腫瘍手術	1
舌下腺腫瘍摘出術	1
甲状腺手術(良性)腺葉切除	13
甲状腺悪性腫瘍手術	14
副甲状腺腺腫過形成手術	4
頸部悪性腫瘍手術	1
頸部郭清術	32
頸嚢摘出術	3
深頸部膿瘍切開術	8
頸部リンパ節生検	33
喉頭気管分離術	2
気管口狭窄開大術	2
気管切開術	46
気管切開孔閉鎖	7
皮弁・咽頭縫合瘻孔閉鎖術	4
自家遊離複合組織移植	1
皮弁作成術	3
術後出血に対する止血術	2

4. カンファレンス

月曜日 8時15分 症例検討会

17時 術前・術後症例検討会 抄読会
学会発表予行等

火～金曜日 17時 術前、病棟回診

5. 研究・学会活動

学会活動では、日本耳鼻咽喉科学会埼玉県地方部会、日本耳鼻咽喉科学会総会、日本耳科学会、耳鼻咽喉科臨床学会、頭頸部癌学会、頭頸部外科学会等にも多数演題を発表した。研究面では好酸球性副鼻腔炎・好酸球性中耳炎の病態とその治療に関する研究、ANCA関連血管炎性中耳炎慢性中耳炎、頭頸部腫瘍に関する論文、を和文、英文誌に発表した。

また、8月には鼓室形成術に関するセミナーを開催した。

6. 2025年度の目標、事業計画等

1) 研究について

難治性中耳炎である好酸球性中耳炎、ANCA関連血管炎性中耳炎の病態とその内耳障害を引き起こす機序さらに治療に関する研究、鼻科領域では好酸球の関与する好酸球性副鼻腔炎の病態と治療、手術法に関する研究を行った。これらの研究成果は2024年日本耳鼻咽喉科学会総会、日本耳科学会、埼玉県耳鼻咽喉科地方部会などにおいても発表した。来年度はさらに研究を充実させ詳細な病態の解明を引き続きすすめていきたい。

2) 臨床面で

外来診療は、急性期診療、外科治療に重きをおき、いったん症状の安定した患者に関しては逆紹介を積極的に行なっている。耳鼻咽喉科の幅広い領域の診療を網羅し、また若い医師の教育プログラムに関しても、手術を含む臨床的知識と技術を学び、さらに研究面にも興味を持てるように引き続き努力していきたいと考えている。